

「観光業は無限大、ゴールのない産業」



西ノ島町の観光業

観光業は、西ノ島町の基幹産業「漁業・畜産・観光」の1つとして重要な役割を担っています。そして、隠岐と言えれば必ず語られる大山隠岐国立公園は、島根県・鳥取県・岡山県にまたがる国立公園で、山陰を代表する景勝地が集結されています。

昭和38年4月、大山国立公園に隠岐地域が編入され、昨年50周年を迎え半世紀となりました。

関係市町村には、姉妹町の鳥取県江府町も含まれ、国立公園でもつながりをもっています。

国立公園に指定されると観光客が急増し、昭和40年から「国賀びらき」が開催され、昭和43年からは国賀レストハウス、鬼舞スカイラインなどが整備され、国立公園になって10年が経過したピーク時には、年間17万人の観光客が西ノ島を訪れました。

ところが、この年の12月、オイルショックによって経済が混乱、物価の変動、それ以降の不況の影響、国外旅行の流行などで、隠岐の観光が厳しい時代へ突入していきました。

そして国内旅行は団体型が主流となっており、今では団体型からグループや個人旅行へと変化している状況です。

本土側では格安日帰りツアーなども参戦しており、ますます隠岐の観光業は厳しい状況の中、関係機関と連携しながら試行錯誤しているところです。

隠岐の観光入込客数

隠岐島全体の観光入込客数が落ち込んでいますが、西ノ島町の観光入込客も同じく減少しています。西ノ島町の入込客数の年間別数値は次の通りです。

近年の西ノ島の入込客数

年	入込客延べ人数
平成22年	60,455 人
平成23年	56,066 人
平成24年	57,123 人
平成25年	53,748 人

入込客延べ人数=宿泊施設+スポーツ・レクリエーション+文化・歴史+自然公園

近年の旅行商品は、「安」「近」「短」と言われる中、隠岐の旅行商品は、観光客が費やす「時間」と「お金」に見合う満足感が得られるかどうかポイントになるため、隠岐に行ったからこそ食えることができた、体験することができた等言っていただけのように観光地としての魅力作りが、これまでに以上求められています。

修学旅行の受け入れ

平成元年から関西方面を中心に修学（教育）旅行を受け入れています。中学校、高等学校の生徒たちが島に親しみ、将来の観光客としても期待するところです。

住民の皆様にご協力いただいている海鮮バーベキュー、イカ割り体験、貝殻細工など体験メニューも好評です。今年度も4校の受け入れが予定されていますので、島民のちよっとした声かけが思い出に残る旅行になると思います。

（実績）
年度：平成元年から平成25年
学校数：123校（平均4.9校／年度）
来客数：24,500人
（平均980人／年度）



貝の絵付け体験

「隠岐島」を「西ノ島」をPRする様々な手法

西ノ島町観光協会と連携しながら、島外にイベント出店、観光情報説明会などを行っています。

CMなどのようなお金をかけず、マスコミを活用したPRも行っています。映画、ドラマの受け入れ対応では、作品の舞台となった発信、隠岐を体感した有名人や関係者が、口コミで隠岐を広めていただく効果もあらわれています。

また、平成25年4月からは、観光に特化したホームページ「隠岐・西ノ島いいね！」を開設し、また、SNS（Twitter・Facebook）動画サイト（YouTubeチャンネル）・3D地形CGなどを活用し、世界へ情報発信を行っています。

西ノ島町：観光HP



（参考）隠岐・西ノ島いいね
<http://oki.nishinoshima.com/>

隠岐が世界に認められた瞬間



平成25年9月9日に、隠岐諸島が国内では6地域目となる世界ジオパークに認定されました。

貴重な地質と地形、特有の生態系を持つ、私たちが暮らす隠岐諸島。世界認定されたことは、隠岐諸島の素晴らしさが世界に高く評価されたものであり、観光をはじめとするあらゆる分野で大きな効果をもたらすものと期待しています。

（参考）ジオパーク…地質学と公園を組み合わせた造語「大地の公園」と呼ばれる。